

A detailed watercolor illustration of a European city, likely Strasbourg, featuring a river, a bridge, and a large Gothic cathedral in the foreground. The city is densely packed with buildings, and mountains are visible in the background.

株主通信

2009年4月1日～2010年3月31日

創業者・稲畑 勝太郎 著
「欧亜に使して」より

稲畑産業のCSR
稲畑産業で学んだ
企業家精神と信頼

TOPICS
稲畑産業ウェブサイトが
リニューアルオープン
「第1回国際二次電池展」に出展

IK 稲畑産業株式会社

Nasuyahi



代表取締役社長

稲畑勝太郎

株主の皆様には益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
当社の2010年3月期における事業の概況をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期の日本経済は、2008年末からの世界的不況の影響が残る中、雇用情勢の悪化やデフレの影響など依然厳しい状況が続きました。しかしアジアを中心とする海外経済の改善や緊急経済対策の効果などを背景に、景気持ち直しの動きもみられました。

こうした中、当社では主力の情報電子事業や合成樹脂事業が回復傾向となりましたが、対前期比では、連結売上高は7.2%減の4,107億8千2百万円となりました。一方、営業利益は利益率の改善及び経費の削減などにより対前期比54.1%増の55億1千万円となり、経常利益は同27.9%増の48億8千9百万円となりました。当期純利益は投資有価証券評価損などの計上により同18.5%減の17億6千2百万円となりました。

経済環境は今後も予断を許さない状況が続くことが予想されます。当社といたしましては、引き続き事業の再構築や資金の効率化に努めるとともに、営業力の強化を図り、収益力の向上に全力で取り組む所存であります。

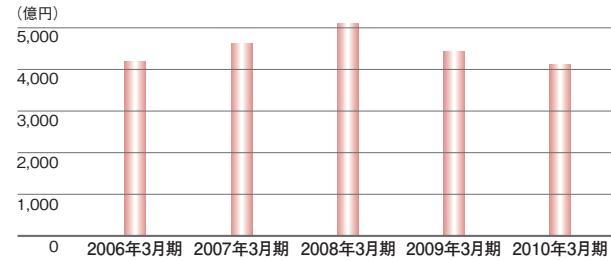
当社は今年、おかげさまで創業120周年を迎えました。今後とも「愛・敬」の人間尊重の精神を大切にしながら、皆様に信頼され、一層お役に立てる存在になるべく全力を尽くしてまいりたいと存じますので、何卒、皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年6月

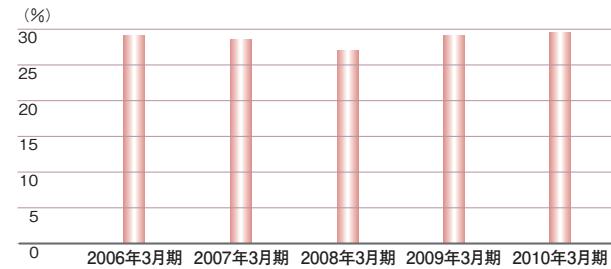
ファイナンシャル ハイライト(連結)

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■売上高



■自己資本比率



■業績の推移

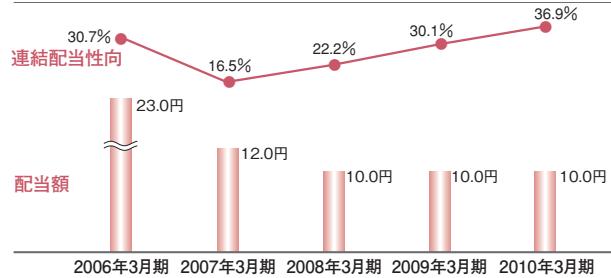
決算年月	(単位)	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期
売上高	(百万円)	423,374	466,096	500,019	442,761	410,782
営業利益	(百万円)	6,339	7,605	7,659	3,576	5,510
経常利益	(百万円)	7,572	7,325	7,795	3,823	4,889
当期純利益	(百万円)	4,638	4,570	2,922	2,162	1,762
純資産額(注2)	(百万円)	78,457	83,891	78,163	63,599	68,463
総資産額	(百万円)	269,590	287,808	284,637	215,279	229,964
1株当たり純資産額	(円)	1,253.77	1,276.44	1,184.90	963.50	1,042.19
1株当たり当期純利益	(円)	75.04	72.76	44.98	33.22	27.08
自己資本比率(注3)	(%)	29.1	28.7	27.1	29.1	29.5
1株当たり配当額	(円)	(注1)23.0(17.0)	12.0	10.0	10.0	10.0
連結配当性向	(%)	30.7	16.5	22.2	30.1	36.9

(注1)2006年3月期1株当たり配当額23.0円には特別配当17.0円を含んでおります。
 (注2)2007年3月期より純資産額には繰延ヘッジ損益、新株予約権及び少数株主持分を含んでおります。
 (注3)2007年3月期より自己資本比率は(純資産合計-新株予約権-少数株主持分)÷総資産の算式で計算しております。

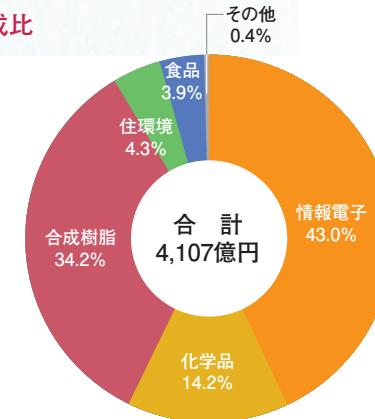
■営業利益



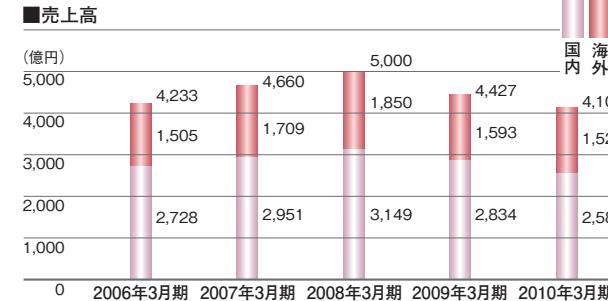
■1株当たり配当額と連結配当性向



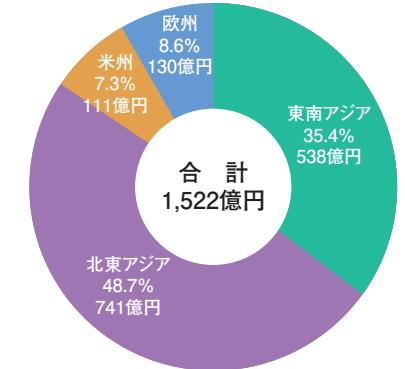
■売上高構成比



■国内・海外の対比



■海外地域別売上高構成比



■営業利益



(注)連結営業利益と国内・海外の営業利益の合計との差は連結会計上の消去によるものです。

(単位:百万円)

■事業区分別売上高と営業利益 (2010年3月期)

事業区分	売上高	%	営業利益	%
情報電子	176,774	5.4	2,435	108.7
化学品	58,214	-12.7	634	164.5
合成樹脂	140,376	-12.3	2,230	8.8
住環境	17,552	-20.9	16	—
食品	16,240	-31.7	-50	—
その他	1,624	-32.5	243	-30.5
合計	410,782	-7.2	5,510	54.1

(注)1.上記パーセント表示は、対前期増減率。
 2.住環境・食品事業は、前期または当期が営業損失のため増減率を「-」表示にしております。

会社情報

■役員

代表取締役社長 社長執行役員	稲畑 勝太郎	執行役員	タイ総支配人	岩上 潤
代表取締役 専務執行役員	中野 佳信	執行役員	東南アジア総支配人	尾崎 一郎
代表取締役 専務執行役員	大槻 延広	執行役員	NCプロジェクト統括	上杉 隆
取締役 常務執行役員	西村 修	執行役員	合成樹脂第一本部本部長	望月 卓
取締役 常務執行役員	金子 證	執行役員	合成樹脂第二本部本部長	杉山 勝浩
取締役 執行役員	菅沼 利之			
取締役 執行役員	横田 健一			
取締役 執行役員	赤尾 豊弘			
取締役	亀井 康夫			
取締役相談役	稲畑 勝雄			
常勤監査役	星田 正嗣			
常勤監査役	佐藤 精一			
監査役	井原 實			
監査役	鈴木 修一			

(注)1.取締役 亀井 康夫は、社外取締役であります。
2.監査役 井原 實及び鈴木 修一は、社外監査役であります。
3.当社は、監査役 井原 實及び鈴木 修一を東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届出ております。

■会社の概要

会社名 ● 稲畑産業株式会社
創業年月日 ● 1890年10月1日
設立年月日 ● 1918年6月10日
資本金 ● 93億6千4百万円
従業員数 ● 548名(グループ会社への出向者を含む)
〔連結:3,740名〕

大阪本社 ● 大阪市中央区南船場一丁目15番14号
東京本社 ● 東京都中央区日本橋本町二丁目8番2号
名古屋支店 ● 名古屋市中村区名駅三丁目22番8号
営業所 ● 松本営業所、三重営業所
九州営業所(霧島市)

(2010年3月31日現在)

■株式情報

【発行可能株式総数】 200,000,000株
【発行済株式の総数】 65,159,227株
【株主数】 5,245名

【大株主の状況】

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
住友化学株式会社	13,836	21.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,582	5.5
JP MORGAN CHASE BANK 385093	2,200	3.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,983	3.0
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,736	2.7
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	1,315	2.0
稲畑 勝雄	1,151	1.8
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1,126	1.7
株式会社みずほ銀行	1,114	1.7
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,059	1.6

(注)1.持株比率は自己株式数(69,077株)を控除して計算しております。
2.「みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社」は、株式会社みずほ銀行が所有していた当社株式を退職給付信託として委託した信託財産であり、議決権については株式会社みずほ銀行の指図により行使されることになっております。
3.上記株主の英文名は、株式会社証券保管振替機構から通知された「総株主通知」に基づき記載しております。

(2010年3月31日現在)

■株主メモ

事業年度 ● 毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日 ● 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
その他必要がある時は、あらかじめ公告して定めます。

定時株主総会 ● 毎年6月開催
上場証券取引所 ● 東京・大阪証券取引所 市場第1部
証券コード ● 8098
単元株式数 ● 100株
公告の方法 ● 電子公告 当社のホームページに掲載します。
<http://www.inabata.co.jp/koukoku>
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

会計監査人 ● 大阪市中央区瓦町三丁目6番5号
銀泉備後町ビル あずさ監査法人
株主名簿管理人及び
特別口座管理機関 ● 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 ● 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) ● 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ● ☎0120-176-417
(ホームページURL) ● <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。

【特別口座について】
株券電子化前にはふり(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

稲畑産業で学んだ、企業家精神と信頼



リヨン経営大学キャンパス



ニコラ・モエ
Nicolas MAUHÉ

リヨン経営大学
EM LYON Business School



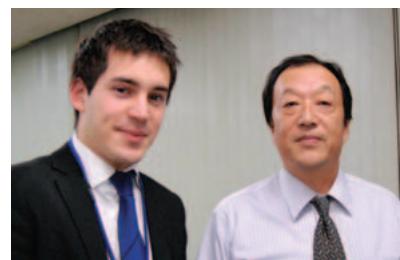
フランスで染色技術などを学んだ稲畑産業の創業者・稲畑勝太郎は、1890年、稲畑染料店（稲畑産業の前身）を創業。欧州の最先端の染料・染色技術の日本での普及に尽力しました。当社では、創業以来ゆかりの深いフランスとの文化交流促進の一つとして、1997年以来、ヨーロッパ有数のビジネススクールの一つであるリヨン経営大学(注)から毎年1名の留学生を受け入れています。

今回は2009年度の留学生として来日したニコラ・モエさんの「企業家精神と信頼」と題する寄稿文をご紹介します。

(注) 英Financial Times紙の欧州ビジネススクールランキングで、2008年から2年連続8位。

企業家精神

私は2009年7月から12月までの約半年間にわたる稲畑産業での研修を通し、リヨン経営大学の最初の1年間で学んだ内容と、ビジネス現場の実際とを比較する機会に恵まれました。



リヨン経営大学では、学生に企業家としての視点を育成することを目指しています。ビジネスには常にチャンスがあるということ、創造力の高め方、ビジネスチャンスの見極め方、リスクの取り方、最新トレンドのつかみ方、などを学びます。ただこうしたことは教科書や講義だけで理解するのは困難でした。

稲畑産業で最初に印象的だったのは、社員が既存の仕事を大切にしながらも常に新しいビジネスを開拓している、ということでした。こうした企業家としての姿勢は稲畑産業の社員には自然に備わっているようにみえました。通常、企業が新たなビジネス開拓に躍起になるのは、既存ビジネスが厳しくなり、活路を見いだそうとするケースが多いように思いますが、稲畑産業では既存の仕事に競争力があっても、常に新しい商機を求めているのです。



新たなビジネスチャンスを獲得しやすいよう、稲畑産業の社員は必要な「自由」を与えられています。一人ひとりが新たなマーケットや取引先を開拓し、あたかも「独立事業主の集合体」のようです。「新しいビジネスを造る、と言う情熱は優れた営業マンに最も必要な資質で、創造力、熱意、プラス思考、知ることへの貪欲さ、を持ち合わせていることが重要」という情報画像本部の赤尾豊弘本部長の考えは、まさに大学の教授陣が私に教えようとしていたことでした。

旺盛な企業家精神により、稲畑産業は常に進化し続けました。120年前に染料の輸入販売から始め、常に新たなビジネスチャンスを求めながら現在の姿へと発展しました。商社機能に加え、合成樹脂分野ではアジア各地で樹脂コンパウンド事業を営み、他分野でも製造加工機能を強化しています。新たなチャンス



を追求しながら進化を続けた稲畑産業は時代のニーズに敏感です。例えば、住環境分野では環境にやさしい商材に取り組んでいるほか、情報電子分野では太陽電池ビジネスの開発に取り組んでいます。

取引先との信頼とネットワーク

私は、大学で教わった企業家精神の生きた実例を稲畑産業の中に発見することとなりました。もっとも稲畑産業の真の魅力はこの企業家精神にとどまりません。中でも私が大変驚いたのは、稲畑産業と取引先との強い信頼関係でした。



稲畑産業の取引先は、稲畑産業が長年培った経験やノウハウに信頼を寄せています。例えば仕入先は、市場調査、物流、在庫管理、時には資金提供も含めたサービスを付加した上で自社製品を販売するパートナーとして、稲畑産業に信頼を寄せます。

稲畑産業ではいかに取引先に満足していただけるか、ということに常に心掛けていると感じました。「お客様のためであれば、たとえ短期的なメリットはなくても可及的速やかに商材を届けることを優先することもある」と聞いた時、私は正直、驚きました。こうした姿勢が取引



先との関係を一層、強化するのでしょうか。また稲畑産業は取引先との持続的な関係を特に大切にしていると感じました。「持続的関係を重視することは稲畑産業の経営ビジョンにも通じ、商売の根幹でもある」という声は社員の方々から共通して聞かれました。

取引先との持続的関係の構築は、稲畑産業の強固で幅広いネットワークの形成にも結びついています。このネットワークを活用し、さらにお客様のニーズにマッチする新たなパートナーを見つけることが可能となります。ある社員の方の言葉をお借りすると「このネットワークこそが稲畑産業の最も重要な財産」なのです。

最後に

研修を通して、稲畑産業のビジネス精神にとっても感銘を受けました。そして私が大学で学んだ内容が実際に生かされている現場を見ることができました。

欧州企業にとっても、稲畑産業とパートナーとなることができれば、非常に有益であるに違いないと感じました。

(翻訳要旨)

稲畑 勝太郎 著 「欧亜に使用して」より

稲畑産業の創業者・稲畑勝太郎は大正15年12月、仏領インドシナ訪問、第10回国際労働総会（於ジュネーブ）への出席、さらに日本経済の海外展開の可能性を探るべく約8ヶ月間の外遊に出発しました。後に外遊中の手記を「欧亜に使用して」として出版、天皇皇后両陛下にも献上されました。ここでは、創業者の足跡をたどりながらその一節をご紹介します。



創業者
稲畑 勝太郎

太平洋上の十字街

新嘉坡（シンガポール）は太平洋上の十字街である。東よりする船、西よりする船、国籍船種の如何を問わず、一度は必ずこの港に寄港する。まことに極東の関門、国際的商戦の中心地である。

新嘉坡ほど、多種多様な人種の集まっている所はあるまい。

しばらく街頭に立って、道行く人に目を留めんか。先ず一番に目につくのは、中国人の数の多いことで、その他、白布を身体に投げかけたインド人が来る。赤や黄の派手なサロンを巻いたマレー人が来る。頭の真ん中を剃り落したタミール族、断髪のシヤム人の男女、その間を長身碧眼のヨーロッパ人が肩で風をきつて来ると云った風で、正にこれ世界人種の絵巻物である。これを見ても、新嘉坡が国際的市場として、如何に入り組んだ関係を持っているかがうかがい知れる訳である。

昭和二年 於 Singapore
（本文より抜粋、仮名遣いなどは現代語に改めてあります。）

Inabataとシンガポール

稲畑産業の現地法人、Inabata Singapore (Pte.) Ltd.は、東南アジアを代表する経済都市シンガポールの中心部にあります。1976年に設立され、当社の第二次世界大戦後の海外展開の出発点となりました。

現在、合成樹脂、化学品、情報電子関連などの輸出入販売を行い、事業を拡大しています。



Inabata Singapore (Pte.) Ltd.が入居するビル

著作権の関係上、ネットワークへの掲載は行いません。



T O P I C S

稲畑産業ウェブサイトが リニューアル オープン

2010年4月1日より、稲畑産業ウェブサイトがリニューアルオープンいたしました。

新ウェブサイトでは、トップページからよりスムーズに様々な情報へアクセスできるようになりました。投資家向け情報ページではグラフなどを通して当社の業績をわかりやすくご覧いただけるようになりました。また、これまでとは一味違った角度から当社をご紹介しますコーナーを設け、今後も新しいコンテンツを追加していく予定です。

当社ウェブサイトでは、今後とも株主様をはじめすべてのステークホルダーの皆様へ、スピーディーかつ分かりやすい情報提供に努めてまいりますので、引き続きご活用いただきますようお願い申し上げます。



稲畑産業株式会社 ウェブサイト <http://www.inabata.co.jp/>

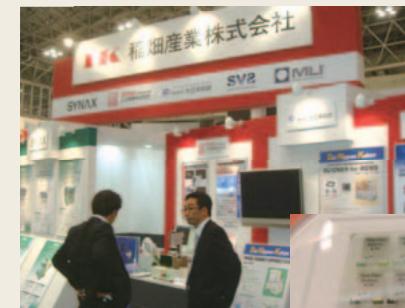
各種展示会に出展

当社の電子機能材本部は、2009年12月2日～4日に開かれた「SEMICON Japan 2009」（千葉幕張メッセ）と2010年3月3日～5日の「第1回国際二次電池展（バッテリージャパン）」（東京ビッグサイト）に出展しました。

「SEMICON Japan 2009」の当社ブースでは、マスクアライナー装置、テーピング品外観検査装置などを展示し、注目が集まりました。

「第1回国際二次電池展」のGS Caltex Corp.（本社：大韓民国ソウル市）との共同展示ブースでは、厚さ約60μmの全固体薄膜二次電池が大きな注目を集め、新聞やテレビなどのマスメディアでも多数報道されました。

※二次電池：充電することで繰り返し使用することが可能な電池



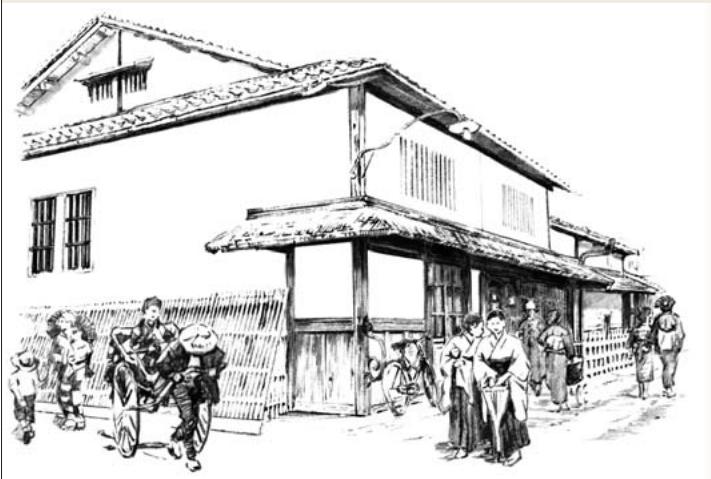
SEMICON Japan 2009



「第1回国際二次電池展」での全固体薄膜二次電池のサンプル

一八九〇年、稲畑染料店発足

京都市上京区の初店舗(イメージ図)



...1890...2010

日本の近代化への熱き志

創業者・稲畑勝太郎は一八九〇年、稲畑産業の前身、稲畑染料店を発足させました。京都市上京区に初店舗を構え、欧州一流メーカーの染料、染織機械、薬品、香料、医薬品を輸入する一方、染色技術の実地指導に力を注ぎました。そこには先進的な商品や技術を導入して日本の近代化に貢献したいという熱き志がありました。

120
YEARS

IK INABATA & CO., LTD.
www.inabata.co.jp